



2007年11月22日

株式会社エーエム・ピーエム・ジャパン
アイトリックス株式会社

世界初、地球温暖化ガス排出量半減の レジ袋・ゴミ袋を全店舗に展開

～ 最新のナノテクノロジーをベースに開発・製品化 ～

株式会社エーエム・ピーエム・ジャパン(本社:東京都港区 社長:相澤利彦 以下am/pm)は、地球温暖化ガスの排出量が半減するレジ袋・ゴミ袋を、小売業界では世界で初めて展開いたします。この袋はアイトリックス株式会社(本社:東京都港区 社長:長谷川正治 以下アイトリックス)が、レジ袋メーカーなどと最新のナノテクノロジー(注1)をベースに開発・製品化したものです。

新レジ袋・ゴミ袋は、従来のものと比べて、地球温暖化ガスの排出量が半減します。

一般に、レジ袋・ゴミ袋は、ほとんどが最終的に焼却されます。この時、樹脂の中の炭素が空気中の酸素と結合し、CO₂、すなわち地球温暖化ガスが大気中に排出されますが、今回開発した新レジ袋・ゴミ袋は、この地球温暖化ガスの排出を抑制するための2つの特長を持っています。

- 1) 最新のナノ(10億分の1メートル)テクノロジーにより、レジ袋・ゴミ袋の強度を向上させ、更なる薄肉化を図りました。このため原料樹脂の使用量が約10～30%削減されましたので、従来のものと比べて、温暖化ガス排出量も約10～30%減少することになります。
- 2) 同様のナノテクノロジーにより、焼却時に樹脂の中の炭素が空気中の酸素と結合しにくくなる性質を樹脂(ポリエチレン)に付加することにより、従来のものと比べて、焼却時の温暖化ガス排出量が約35～40%減少します。

今回の新レジ袋・ゴミ袋が焼却時に排出する温暖化ガスの量を従来のものと比較すると、以上の2つの特長により、温暖化ガス排出量はほぼ半減することになります。

(注1)ナノテクノロジーとは、物質をナノメートル(10億分の1メートル)の領域において、自在に制御する技術のことで、ナノテクと略されます。

1年間で削減できる温暖化ガス排出量は、東京ドーム約130個分の森林が1年間に吸収する量に相当します。

am/pmが、2007年の間に全店舗で使用するレジ袋・ゴミ袋の量は、それぞれおよそ1,000トンと150トンで、合計1,150トンです。この量をベースとすると、今回の新レジ袋・ゴミ袋の採用により、温暖化ガス排出量の削減は、二酸化炭素換算で年間約3,000トンになります。これは東京ドーム約130個分(約600ヘクタール)の森林が1年間に吸収する温暖化ガス量に相当するものです。(注2)

(注2) ・ 前段の1)と2)の効果でそれぞれ15%と35%が削減されるとして計算しています。

・ ポリエチレン1トンの製造および焼却を二酸化炭素排出量に換算すると、それぞれ11.4トンおよび3.14トンであるとしています。

・ 森林1ヘクタール当たり二酸化炭素換算5トンの温暖化ガスを1年間に吸収するとしています。

コンビニエンスストア業界のレジ袋削減基準を大幅にクリア

(社)日本フランチャイズチェーン協会の会員であるコンビニエンスストア12社では、容器包装リサイクル法完全施行スタート時(2000年度)より、レジ袋削減に取り組んでおり、2010年度において2000年度比35%削減を最終目標値として設定しております。am/pmにおいては、今回の新レジ袋の採用により、この最終目標値を2年前倒しで達成できる見込みです。

今回の新レジ袋・ゴミ袋は、本日11月22日より順次店舗への展開を開始し、全店舗への導入が完了するのは、2008年春の予定です。

今回の新レジ袋・ゴミ袋には、薄肉化と同時に、焼却時の温暖化ガス排出量比率が減少するという画期的な機能を付加いたしました(注3)、am/pmは、今後についても、地球温暖化ガス排出量の削減はもちろんのこと、企業の社会的責任に関する諸施策に積極的に取り組んでまいります。

(注3) これらの機能は、イーベリック社の樹脂添加剤(ナノハイブリッドカプセル2)によるものです。

アイトリックスは、同社と樹脂添加剤の共同開発を行っています。

本件に関するお問い合わせ先		
株式会社エーエム・ピーエム・ジャパン	総合企画部コーポレート戦略グループ 広報担当 川名、粟生	TEL: 03-5544-2690 FAX: 03-5544-2706
アイトリックス株式会社	ナノ材料事業部 井村、山崎	TEL: 03-5793-9350 FAX: 03-5793-9351